

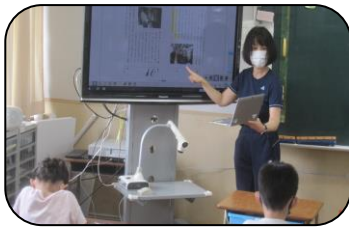


# 八幡小だより

北九州市立八幡小学校  
校長 田頭 麗宏



## 感染対策しつつ「4校時・40分授業」を継続します！



緊急事態宣言延長に伴い、小学校では「4校時・40分授業」の継続が決まりました。本校でもこれまで同様、感染対策をしながらオンライン授業を含むハイブリッド（混合）型授業の充実を目指します。先日来校した市教育委員会学校経営・教育指導課長からは「ハイブリッド授業が、もう『普通』になっていますね」と、定着の評価をいただきました。



児童下校後、各学級担任は、明日のスケジュール・連絡事項のタブレット入力や、教具づくりに励んでいます。もちろん、教室などの消毒も丁寧に行っています。「4校時・40分授業」のねらいは、何より



感染防止に向けて児童の接触機会を減らすことですが、こうした点でも有効活用できています。今後は、ご家庭との連携を図りながら「オンライン授業の補習学習」もできるよう計画していきます。

### お陰様・お互い様・お疲れ様

#### ～ 2週間前の対応を振り返って ～

先々週の月・火曜日の学級閉鎖の際には、児童クラブ関係の出席停止児童やそのきょうだいを合わせ、全校児童の約半数が登校できませんでした。週末から月曜午前中にかけて、家庭連絡、教育委員会や児童クラブとの連絡調整、PCR検査会場設営、タブレット端末や課題集の準備など、学校には多くの課題がありました。しかし、関係の皆様のご理解とご協力により、大きな混乱なく乗り切ることができました。PCR検査の結果も全員陰性で、校内での感染がないことが明らかになり、ホッとした次第です。



今回の対応の中で、何人かの方とお話しすることがありましたが、どなたからも温かい言葉をかけていただきました。一言でまとめると「お陰様・お互い様・お疲れ様」という内容になると思います。本当に励まされました。ありがとうございました。

#### 夏休みの『防災・減災教育フィールドワーク』

被災地を訪問しました

本校が、北九州市防災・減災教育推進モデル校として、5年生を中心に学習を進めていることは、これまで何度かお知らせしています。その一環として、夏休み中の7月28日（木）に、5、6年生の希望者が、4年前の九州北部豪雨による土砂災害で大きな被害を受けた朝倉市、東峰村を訪問してフィールドワークをしました。市教育委員会の主催事業です。

本校の子どもたちは、豪雨と土砂流入の中で児童や保護者が一晩を過ごした旧 松末小学校（廃校）で、土砂が積もった跡を見たり、当時の先生や6年生（現在 高校生）から話を聞いたりして、突然起きた災害の恐ろしさを感じているようでした。また、土砂が流れ込んだ川が集落を押し流した跡を現地で見学したり、徐々に川の水が増して決壊する様子を録画したビデオを見たりしました。どうすれば命が助かる行動をとれるのか、を考える貴重な経験になったと思います。

